

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 3 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671500902
法人名	社会福祉法人 緑樹会
事業所名	グループホーム 癒音
所在地	徳島県板野郡北島町中村字中内26 (電話) 088-697-3788

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 27 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 8 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤:10人、非常勤:4人、常勤換算:癒音Ⅰ 5.8人 癒音Ⅱ 5.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨かわらぶき造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,333 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 8 日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	津保整形外科
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和風2階建ての事業所の周囲には病院や寺院、スポーツ施設があり、道路の向かい側には畑が広がっている。敷地の一角に野菜を植え、また広場はゲートボール場として地域の方に開放し、交流の場として活用している。玄関は格子戸で落ち着いた雰囲気があり、居間と廊下は一目で見渡せるように工夫された設計となっている。利用者の表情は、温かい日差しの中で明るく落ち着いている。職員は「癒音」の名のとおり、利用者にとって「癒しの場」となるよう一人ひとりの思いを大切にしたい支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での主な課題である運営推進会議の開催頻度は、2か月に1回となっており改善されている。また市町村との連携についても、行事予定を記入したカレンダーや「癒音だより」を活用するなどして改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	運営者や管理者、職員は評価の意義をよく理解して全員で取り組み、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、町職員、地域包括支援センター職員、他事業所の管理者などが参加している。会議では事業所の取り組みなどを報告している。しかし、意見交換や話し合いの内容の記録が行われていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の面会時には気軽に何でも話せる雰囲気づくりを行っている。意見が出た時には改善に向けて素早い対応を心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	小学校の運動会や地域の夏祭り・秋祭りに地域の一人として参加している。また事業所の広場をゲートボール場として開放し、地域の方達と交流している。事業所へは幼稚園児や小学生の来訪もある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を認識し、地域に根ざした理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・昼の申し送り時に全職員で理念を唱和し、自己反省の時間を5分間設けて確認し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や地域の夏祭り・秋祭りに地域の一員として参加している。また老人会などに「癒音だより」や行事カレンダーを配布したり、事業所の広場をゲートボール場として開放するなどして地域の方達と交流している。事業所へは幼稚園児や小学生の来訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義をよく理解して全員で取り組み、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、町職員、地域包括支援センター職員、他事業所の管理者などが参加している。会議では事業所の取り組みなどを報告している。しかし、意見交換や話し合いの内容の記録が行われていない。	○	運営推進会議では参加者からの意見も取り入れた話し合いを行われたい。また内容は記録して職員に回覧し、確認印・サインをするなど全職員の共有に取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険課との連携に加え、教育委員会にも働きかけて幼稚園児や小・中学生との交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月、「癒音だより」や行事予定を書き込んだカレンダーを送付するとともに、利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態、金銭出納状況などを報告している。利用者の状態に変化があった場合にはその都度伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には気軽に何でも話せる雰囲気づくりを行っている。意見が出た時には改善に向けて素早い対応を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を大切に、職員の異動は最小限に留めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は1つのテーマを3回行い、交代で全職員が受講できるようにしている。外部研修も年間計画を立て、受講している。研修内容は全職員に共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の事業所と研修を行ったり、県外施設での現場実習を行うなどして交流し、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者や家族とよく話し合い、初期のケア方針を決めて徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除など家事全般に関して利用者からアドバイスをもらうなど、共に支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動などから利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族、その他関係者と話し合いそれぞれの意見が反映されている。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた定期的及び利用者の状態に応じてその都度見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、家族の要望によって受診の付き添いなどを行っている。また外出や買い物など、その時々要望に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と馴染みの関係にあるかかりつけ医と連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、利用者や家族、かかりつけ医などと相談し、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時などには利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出時間や行事への参加などは事業所の都合にあわせることなく利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に盛り付けや配膳をし、ともに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるよう対応している。どうしても入浴を嫌がる方には時間を置いて言葉かけしたり、清拭したりしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や園芸、書道など一人ひとりの生活歴や趣味を活かした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、食事会など日常的に外出支援を行っている。また月に2回「癒しの日」をつくり利用者が希望する場所へ順番に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、利用者の動きに注意して見守りを強化している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回行っている。災害発生時には近隣の方にも協力してもらえよう常に働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士に助言をもらっている。食事や水分摂取量は記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓からは暖かな日差しが差し込み、壁には写真や行事予定が書き込まれた手作りのカレンダーがかけられ、落ち着いた雰囲気となっている。共用空間には畳コーナーやソファがあり、くつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツや仏壇などを持ち込み、利用者一人ひとりの好みにそった落ち着ける居室づくりが行われている。		